

なにわ たいむず

No.113

- 
- 01 news / 管理者うるしまのヨモヤマパナク
 - 02 お母さんの日やあれこれ
 - 03 プラマエダ / アトリエチニワ
 - 04 Case Book
 - 05 サポータークラブ
 - 07 スタッフ紹介

4月、辞令交付式を行いました

4月1日、辞令交付式を行い、なわの里に新しい仲間が加わりました。二人が並んでいる写真の右から

吉本 友紀(よしもと とものり)

入所支援1係所属

尾上 咲希(おのうえ さき)

入所支援1係所属

(吉本S.t. は、2023年12月入職)

「家族、後見人の皆さま、これからどうぞよろしくお願い致します。二人が利用者さん達と関係を深め、支援者として現場で活躍することを願いますし、それをみんなですべていこうと思います。(小池)



NEWS

ライフサポートのなか 外壁工事、竣工しました

十一月初旬から行っていたライフサポートなにわ本館の外壁工事ですが、二月末に竣工いたしました。今回の工事は、令和5年度社会福祉施設等施設整備費補助金を頂いて実施したものと異なります。

屋根はなにわの里のイメージカラーである緑に、外壁はクリーム色を基調にしています。施設は装い新たに、私たちスタッフは気持ち新たに日々の支援を行っています。と思っています。(小池)



管理者より 2024年度が始まりました

2024年度が始まりました

今年の2月にグループホームの再編と一部引越しを行い(理由は消防法が関係しますので詳しくは別の機会で)、2月末には入所施設の外壁や屋根の塗装工事が完了するなど、バタバタな年度末でした。加えて、4月からの報酬改定への対応に忙殺されると同時に、消費税課税事業者となることが判明して消費税の計算を一から勉強するという大仕事も降りかかり、事務局としては泣きそうな日々を過ごしておりました。一方、グループホームの引越しや外壁工事によつていつもの流れが変わることは、利用者さんにとっては大きな変化であったと思いますが、コロナのときと同じように、利用者さんの混乱はそれほど大きくはなかつたように思います。スタッフの丁寧な対応も功を奏したのだと思います。が、こういった姿からより利用者さんのことを知れるといいなと思います。

4月に大幅な報酬改定があり、対応が大変だったわけですが、児童通所(放デイ)は短時間による基本単価が下がったものの、他の加算を取ることで減収は避けられる見通しとなりました。頑張っている事業所を評価する視点がより明確になっていることを実感します。読み解くまでは理不尽な改正だと思っていましたが、理解できるとよくなりました。感謝します(上から目線?)。

昨年度退職したスタッフ2名が、この4月からなにわの里を副職として戻ってきました。週1回でも皆の力になればとのこと。こちらのことを気にかけてくれたことが何よりうれしいですね。勇気付けられます。

自分事ではありませんが、この6月から研修やメンタルヘルスでお世話になつている『一般社団法人 藍Takamura協会』の理事に就任しました。藍協会は自閉症の方やその家族に伴走することを大切にしており、貴重な学びの機会を提供いただいております。藍協会の活動がなにわの里や大阪に根付くことを夢見て、新しい役割を果たしていきたいと思っております。

ヨモヤマパナシ



旅行の思い出

思い切って旅行に行くことを両方の実家も快く了解して頂き、お正月と夏に4泊5日の旅行をすることに。

お正月は大阪より暖かい和歌山方面へ向かいました。息子は幼い頃から車が大好きでしたので、車内では大きな声で体を前後にゆさぶりご機嫌でした。一番の目的は運動をすることでしたので、旅行中はたくさん歩き、潮岬では駆けっこもしました。笑顔がたくさん見られるのが親も嬉しくて、良い思い出となりました。夏は信州方面への旅行が定番となり、30年以上続きました。

お父さんは短い闘病生活の後、スッと姿を消しましたので、旅行で息子が大好きなお父さんと美味しく食事をしている姿が良い思い出です。息子には元気な姿のままの自分でいてほしいというのがお父さんの遺言でした。

今は帰宅することが小さい旅。色々ありましたが早い時期に兄にピタリとなり、変わり身の速さはうらやましい限りです。

by small field ママ

担当者コメント欄

寒さに抗えずお家でこもっていた冬も終わり、すっかりあたたかい陽気に包まれてきました(発行時にはキラキラ太陽に汗をかいているかな👧👧)。

「旅行」「外食」「ピクニック」など外に足を運びたくなる時期♪今回はそんなお出かけの思い出を聞いてみました。(森本・高田)

今回のテーマ

家族のお出かけの
思い出



お母さんが日々感じていることを
ちよつとだけ垣間見るコーナーです

外遊びも好きだけど、一番は・・・

息子は小学生の頃とても活発で、自転車によく近所を走り回っていました。暗くなるまで夢中で遊び、自転車を置いて帰ってきたことも(;▽;)川遊びでは泥んこになり、遠足に行くのも大好きでした。

ただ、娘が息子のことを気にして家族での外出はなかなか難しかったです。それでも、息子もお出かけしたいかなと思い、一度県内の旅館に宿泊しました。こちらの思いとは裏腹に、嫌がって車から降りず大変でした。いつもと違う場所に戸惑ったのかもしれませんが。

近くの神社まで散歩しているといつの間にか自宅に帰っていたことも！また、「お風呂に入りたい」と言うので温泉に連れて行くと、実は帰宅したいという意味だったことも！我が家が一番落ち着く場所のようです。

そんな息子も、今では面会や帰宅後もなにわの里に素直に帰るようになりました。なにわの里が心安らぐ場所となったようです。

by キューピーちゃん





理事長マエダが、ブラブラするコーナーです



「石川県精育園」をブラブラ

今回は石川県精育園の田中部長をブラブラ(といった感じではないですが)訪ねました。

マエダ「能登半島地震から(インタビュー時)四ヶ月が経過しましたが、振り返って如何ですか」

田中部長「とにかく、百十三名の利用者さんの避難まで『走り切った』という感じです。一月前半はその日をしるぐ時期。一月後半からは外部からの支援調整時期。二月以降は利用者さんの避難先確保の時期。といった感じで、やっぱり、道路も寸断され孤立していた時期が一番、辛かったです。あと、今だから言えますが、百十三名の利用者さんが全員、避難できるはずはないと思っていました。一人ではできないことも、なにわの里さんをはじめ、様々な人とのつながり、多くの支えがあったからこそ、ここまでやってこれたと思います。一週間分の備蓄、簡易トイレや体拭きシート、防寒グッズの準備、少し離れた施設との防災協定は重要と感じました」

マエダ「利用者さんの様子は如何でしたか」

田中部長「全体的には、思っていたより動じない。変化を受け入れ、落ち着いて過(こ)されてきた。という感じ。当然、色々、我慢していたと思いますが、新たな発見でした」

マエダ「今後について、何か一言あれば」

田中部長「三月以降、応援が減ってきていますが、能登の復興はまだまだ、これからという状況です。精育園の今後についても、まだ、何の見通しも立っていません。石川県で生まれ育った利用者の方々が、『戻れてよかった』と感じることが出来る環境を整えるため、全国の皆さんの思の長い支援をお願いできればと思います」

今回も、超コンパクトにまとめさせていただきました。田中部長、大変な中、ありがとうございました。



アトリエナニワ

なにわの里で使用している自立課題や支援ツールを紹介するコーナー

『 質問に答える 』

質問内容は、お子さんの発達などに合わせて、変えています

【ツールの説明】

「ジェンガ」ゲームのピースに書かれた数字の質問に答える

【ツールのメリット】

- ・ コミュニケーションが苦手なお子さんでも、楽しみながら答えることができる！
- ・ ツールを介すことで【話す】と【聞く】がわかりやすくなり、聞く姿勢も学ぶことができる！



(児童支援係 忍穂 明紗子)

atelier naniwa

Case book

なにわの里 支援の実践紹介



日常を取り戻す！！

コロナ渦を抜け、利用者さんと出かけた余暇外出の様子報告

入所GH支援1係



【はじめに】

『余暇プログラムの充実』・・・2023年度初頭、長く続いたコロナ渦を抜け、少しずつでも日常を取り戻すべく、なにわの里成人支援課全体で掲げた合言葉の1つです。それに合わせ同課の入所・グループホーム支援1係も、長い間自粛していた『利用者さんと余暇外出に出かける』ことを重点課題として取り組むことにしました。今回はコロナ渦を抜け、ようやく利用者さんと出かけることができた2023年度余暇外出の様子をいくつかご紹介したいと思います。(係長 藤井)

※本稿で使用した個人が特定できる写真は、すべてご本人・ご家族・後見人の了承を得て掲載しています

【①公園散策】

- ・行先：奈良公園・馬見丘陵公園
- ・実施月：2023年6月

利用者さんたちは最初、奈良公園の鹿を怖がっている様子もみられましたが、次第に慣れて近づく方、終始一定の距離を保ち続ける方、さまざまな反応があり利用者さんたちの以外な一面を見ることができました。(橋本)



【②イルミネーションを見て外食】

- ・行 先：ハーベストの丘
- ・実施月：2023年11月

当日はとても寒い日になり、利用者さん・スタッフともにしっかりと着込んで出かけることにしました。ハーベストの丘では、きれいに電飾されたベンチに座ったり、踏むと光とともにピアノの音がする遊具で遊んだり、イルミネーションを満喫することができました。外食もして長時間のお出かけになりましたが、皆さん疲れることなく、余暇外出を楽しんでいたと思います。(高松)



【③水族館に行く】

- ・行 先：ニフレル
- ・実施月：2023年11月

水族館に入った矢先、怖かったのか寝転がって進むのを嫌がる利用者さんもおられましたが、普段見ることができない珍しい魚や動物を鑑賞でき、良い体験になったと思います。(星野)

【④サーカスを見に行く】

- ・行 先：木下大サーカス(森ノ宮)
- ・実施月：2024年3月

少し遠出をしてサーカスを見に行ってきました！「あまり興味を示さないかも…」と、心配していたところもあったのですが、サーカスの公演中は全員食い入るようにショーを見ており、こういった機会を作れてよかったと実感しています。(本谷)



【⑤サッカー観戦】

- ・行先：長居公園
- ・実施月：2023年6月

日頃からスポーツの話題で話が合う利用者さんとスタッフとで、サッカー観戦に行きました。様子は写真のとおり！熱い時間を利用者さんと共有することができました！！（星野）



【おわりに】

以上、『利用者さんと余暇外出に出かける』を2023年度係内の重点課題として取り組んだ様子の報告でした。1つ1つの余暇外出それだけを見てみると、特別紹介するほどでもないごくありふれたもの・・・

そう言ってしまうとよいものばかりです。しかし、限られた人員配置で日々の現場業務に追われる中、合間を縫ってこういったささやかな余暇外出を企画・調整するためには大変な労力を現場に強いることになり、実施にこぎつけるだけでもチーム全体を挙げての大変な試みになってしまうのが正直なところです。

ただ、そんな現場現状の中でも「コロナ渦での自粛生活が長かった利用者さんに少しでも外出の機会を作りたい」年度間通してそんな想いでここまでやり切ったチームの底力と頑張り、この点は胸を張って皆さんにお伝えすることができます。

最後になりましたが、外出実施に向けたスタッフ全員の水面下の努力もご紹介し、2023年度利用者さんと出かけた余暇外出の様子報告とさせていただきます。（藤井）

なにわの里サポータークラブに資金又は物品・労力などでご支援をいただいた方々

2024年1月1日～5月31日

（敬称略・順不同）

小畑 チヅ子

石井 純代

合田 裕章

小島 純子

森 克雄

馬場 幸枝

車谷 二三夫

山下 孝子

光田 一二三

油利 三重子

井上 政二

井上 明子

STAFF INTERVIEW

なにわの里スタッフの紹介コーナーです。インタビュー形式で、スタッフの声をお届けします！

— Tさんがなにわの里に入ってもう丸3年になります。なにわの里との出会いを教えてください！

就職のとき、福祉の分野で探していて、なにわの里の求人票を見つけたのが始まりです。発達障害や知的障害のある方と関わる仕事を希望していたのですが、なにわの里のパンフレットなどを見て、なんだかやんわりした感じの文言であったり、雰囲気がいいなと思いました。

見学に行ったときは、きつずサポート(児童支援)、ワークサポート(通所支援)、ライフサポート(入所支援)を見させて頂いて、子どもから大人までの支援をしていくというところがいいなと感じました。

T.S

(グループホーム
支援係)



— ありがとうございます。では、これまで働いてきて、大変だなと思ったことは？

2年目からケース担当を持たせて頂くようになったのですが、考えた支援がうまくいかないようなときにはしんどいなと思うこともありました。でも「どうしたらその方にとってわかりやすくなるかな?」と考えて、対応を変える中でうまくいったときは、とても嬉しかったですし、それが一つのやりがいなのかなと感じています。

利用者Kさんへの外出プログラムを組むことがあって、外出に行った後に「Kさん、今日は楽しかった?」と聞くようにしていました。「楽しかった」と返してくれるのですが、そのときそのときで表情が違って、本当に楽しかったときはとても穏やかな表情をされているように感じました。そんなふうにご利用者のことを知っていくことも嬉しかったですし、そのうちにKさんの方から「次はどこどこに行きたい」ということを言ってくれるようにもなりました。そのことがとても嬉しかったですね。

— 支援者が利用者さんのことを知っていく、その中で利用者さんの行動が変わっていく…というのは、すごいことですし、Tさんの3年間の大きな成長なんだろうな、と感じます。

今年からグループホームの担当になったのですが、これまで関わりの少なかった利用者さんの担当を持つことになりました。調子を崩されることがあったら、何が原因だったのかなと自分なりに考えて、関わり方を変えてみたり…。やっぱり利用者さんそれぞれで距離感が違って、それを自分なりにわかっていくのが嬉しいですね。

第113号

2024年6月11日発行

発行責任者 漆嶋真一

社会福祉法人 なにわの里

〒582-0025 柏原市国分西 1-3-43HOPE ハウス 202

E-mail naniwa@naniwanosato.jp

HP <http://naniwanosato.jp>

訃報のお知らせ

3～5月に2名のご利用者様が続けざまにお亡くなりになるという悲しい出来事がありました。内1名は施設内での事故という痛ましいものであり、原因の検証と対策の強化に取り組んでいます。お亡くなりになられたご利用者様のご冥福を謹んでお祈り申し上げます。